

公表

事業所における自己評価総括表

| | | | |
|----------------|------------------|----------|-------------|
| ○事業所名 | こばんはうすさくら 浜松恩地教室 | | |
| ○保護者評価実施期間 | | 令和8年1月5日 | ～ 令和8年1月31日 |
| ○保護者評価有効回答数 | (対象者数) | 20 | (回答者数) 19 |
| ○従業者評価実施期間 | | 令和8年1月5日 | ～ 令和8年1月16日 |
| ○従業者評価有効回答数 | (対象者数) | 6 | (回答者数) 6 |
| ○事業者向け自己評価表作成日 | 令和8年2月16日 | | |

○分析結果

| | 事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること | 工夫していることや意識的に行っている取組等 | さらに充実を図るための取組等 |
|---|--|---|---|
| 1 | 『こども一人ひとりに寄り添った丁寧な関わり』 職員が子どもの特性や気持ちに配慮し、安心感を大切にした丁寧な関わりを行っている点が強みであると考えています。 | 来所時や活動前後に、子どもの表情や行動、体調の変化を確認し、その日の状態に応じた声かけや関わりを行っています。 また、うまく気持ちを言葉で表現できない子どもに対しては、選択肢を示したり、気持ちを代弁するなど、安心して過ごせるよう配慮しています。 | 子どもの理解や特性について職員間で共有する機会を増やし、関わり方や声かけの工夫を統一できるよう取り組んでいきます。 また、支援の振り返りを行い、より子どもに合った関わりができるよう検討していきます。 |
| 2 | 『安心して過ごせる環境づくりと安全への配慮』 活動内容に応じた環境構成や見守り体制を整え、子どもが落ち着いて過ごせるよう安全面に配慮した支援が行われています。 | 活動ごとに使用するスペースを分け、視覚的に分かりやすい配置を心がけています。 危険が想定される場面では、職員が近くで見守るなど、子どもの特性や活動内容に応じた位置取りを意識し、安全に配慮した支援を行っています。 | 活動内容や子どもの成長に応じて、環境構成や動線の見直しを行い、より分かりやすく安全な環境となるよう改善していきます。 あわせて、危険が想定される場面について職員間で確認し、安全意識の共有を行っていきます。 |
| 3 | 『保護者との連携を重視した支援体制』 送迎時や連絡帳、面談等を通じて保護者との情報共有を行い、家庭と連携した支援を行っている点も強みの一つです。 | 連絡帳には、その日の活動内容だけでなく、子どもの様子や小さな変化についても記載するよう心がけています。 また、送迎時や面談の機会を活用し、家庭での様子を伺いながら、必要に応じて支援の方向性を共有しています。 | 保護者が支援内容をより具体的に理解できるよう、連絡帳や面談時の説明方法を工夫していきます。 また、相談しやすい雰囲気づくりを大切にし、保護者との情報共有の機会を充実させていきます。 |

| | 事業所の弱み（※）だと思われる事 ※事業所の課題や改善が必要だと思われる事 | 事業所として考えている課題の要因等 | 改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等 |
|---|---|--|---|
| 1 | 『支援内容や専門性についての情報発信が十分でない点』 送迎時や連絡帳、面談等を通じて保護者との情報共有を行い、家庭と連携した支援を行っている点も強みの一つです。 | 日々の支援を優先する中で、支援の目的や専門的な視点を整理し、分かりやすく保護者へ伝える機会や時間が限られていることが要因の一つであると考えています。 | 『支援内容や専門性についての情報発信の充実』 支援の目的や内容について、連絡帳や面談時に補足説明を行うなど、保護者に分かりやすく伝える工夫が必要であると考えています。 また、支援内容を整理し、保護者が理解しやすい形で共有できる方法を検討していきます。 |
| 2 | 『保護者同士が交流する機会が限られている点』 送迎形態等の影響もあり、保護者同士が交流できる機会が少なく、つながりを持ちにくい状況があると感じています。 | 送迎利用が中心であることや、利用時間帯が異なることから、保護者同士が顔を合わせる機会が少なく、交流の場を設けにくい状況が要因であると考えています。 | 『保護者同士の交流機会の創出』 保護者会や情報交換の場について、開催方法や頻度を検討し、無理のない形で交流の機会を設ける工夫が必要であると考えています。 |
| 3 | 『家族支援・きょうだい支援の取組が限定的である点』 家族全体やきょうだいに対する支援については、十分に取り組めていない部分があり、今後の検討が必要であると考えています。 | 日常の療育支援を中心とした運営となっていることから、家族全体やきょうだいに焦点を当てた取組について、十分に検討・実施する余地があると考えています。 | 『家族支援・きょうだい支援の充実』 家族全体やきょうだいへの支援の必要性を踏まえ、行事や情報提供の在り方について検討を進め、段階的な取組につなげていくことが必要であると考えています。 |

公表

事業所における自己評価総括表

| | | | |
|----------------|------------------|----------|-----------|
| ○事業所名 | こばんはうすさくら 浜松恩地教室 | | |
| ○保護者評価実施期間 | | 令和8年1月5日 | ～ |
| ○保護者評価有効回答数 | (対象者数) | 15 | (回答者数) 11 |
| ○従業者評価実施期間 | | 令和8年1月5日 | ～ |
| ○従業者評価有効回答数 | (対象者数) | 5 | (回答者数) 5 |
| ○事業者向け自己評価表作成日 | 令和8年2月16日 | | |

○分析結果

| | 事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること | 工夫していることや意識的に行っている取組等 | さらに充実を図るための取組等 |
|---|--|--|--|
| 1 | 安心・安全で丁寧な支援体制 | 子ども一人ひとりに寄り添い、日常の様子や課題を把握して適切に対応している。 | 定期的な研修やケースカンファレンスを実施し、個々の対応力や共感力を高める。 保護者や子どもとの信頼関係を深めるコミュニケーション方法の工夫を継続する。 |
| 2 | 多様で充実した活動・プログラム | 日常の活動や行事が多彩で、子どもたちが楽しみながら成長できる環境になっている。 学習面のフォローもあり、できることが増える喜びを感じられる。 | 室内や遊びのスペースを活動内容に応じて柔軟に配置し、安全で快適な環境を維持する。 子ども個々の発達や興味に応じた活動プログラムをさらに工夫し、学習・運動・創作など多面的な成長を支援する。 |
| 3 | 分かりやすい情報発信と保護者との連携 | 連絡帳やお便り、SNSを通じて活動の様子や連絡事項を丁寧に伝えている。 面談や送迎時などの報告・相談がしやすく、保護者との共通理解が図られている。 | 定期的な保護者交流会やオンラインでの情報交換会を実施し、互いに学び合える場を設ける。 イベントや行事に保護者も参加できる機会を増やし、子どもの様子を共有できるようにする。 |

| | 事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること | 事業所として考えている課題の要因等 | 改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等 |
|---|--|--|---|
| 1 | 地域交流・外部連携の機会の限定 | 施設運営上、日常の活動が中心となるため、外部施設や地域行事との連携の時間が確保しにくい。 職員の配置や安全管理の観点から、外部活動に制約がある場合がある。 | 児童館や地域施設、専門機関との交流プログラムを増やし、子どもが多様な体験ができるようにする。 地域の行事や活動の情報を保護者に共有し、参加のハードルを下げる工夫を行う。 |
| 2 | 施設・活動環境の見学・確認機会の不足 | 見学機会や活動参観の回数が限られているため、保護者が日常の様子や室内環境を十分に把握できない。 活動内容が日々変動するため、常に保護者に見せることが難しい場合がある。 | 定期的な見学会や参観日を設け、保護者が日常の様子や環境を確認できる機会を増やす。 活動内容や日常の工夫を写真や動画で共有するなど、遠隔でも子どもの様子が分かる工夫をする。 |
| 3 | 情報共有・説明のさらなる明確化の余地 | 感染症情報や研修・講座の参加状況など、保護者が知りたい情報を網羅的に伝えきれていない。 活動報告や連絡手段が多様化しており、保護者によって受け取りやすさに差がある。 | 感染症情報、研修・講座の案内、日々の活動報告を体系的にまとめ、保護者にわかりやすく発信する。 連絡手段（連絡帳、メール、SNSなど）を活用し、保護者の受け取りやすい方法で情報提供する。 |